第 22 回日本消化管学会総会学術集会・第 19 回日本カプセル内視鏡学会学術集会・第 53 回日本潰瘍学会　合同セッション（シンポジウム）
「画像診断にバイオマーカーを加えたクローン病の治療評価と経過観察」

司会　猿田　雅之（東京慈恵会医科大学内科学講座消化器・肝臓内科）
　　平井　郁仁（福岡大学医学部消化器内科学講座）

クローン病診療において、内視鏡的寛解などの治療目標の達成に向けて、適宜治療法を選択・追加する Treat to Target (T2T)の概念が提唱され、その実践には疾患活動性を内視鏡や各種画像検査でモニタリングすることが重要である。近年、便中カルプロテクチン (FC) や血清 LRG などの非侵襲性バイオマーカーが承認されたが、その位置付けは未だ確立していない。本シンポジウムでは、モニタリングを最適化するための各施設の取組みや FC や LRG の位置づけはもちろん、他のバイオマーカーも含めた研究などについて発表頂きたい。